

関西安全・安心を支える科学技術推進会議

ヒューマンファクター研究会

(平成21年度)

ご案内

平成21年4月

財団法人 大阪科学技術センター

ヒューマンファクター研究会

【趣 旨】

私たちの身の回りでは、日常生活、職場、交通などあらゆる場所で、多くの事故が発生していますが、その多くはヒューマンエラーが原因であると言われています。一方、来るべき高齢化社会では、高齢者の増加や熟練労働者の減少などにより、これまで以上にヒューマンエラーによる事故は増加することが予想されます。

このような事故を防ぐためには、設備・機器面での安全対策だけでなく、使う側の人間の要因即ちヒューマンファクターについても対応を図る事が重要となります。人間はミスをおかす存在であるとの前提のもとに、その発生要因について個々の人間の行動だけに帰することなく、その背景となる組織、環境、社会・文化などについて幅広い視点から捉える必要があります。

本研究会では、人間、作業環境、組織等のヒューマンファクターや、リスクマネジメント等幅広く人文社会学的な観点から、事故発生メカニズムの解明や事故防止など、安全性・信頼性確保に向けた検討を行って参ります。

【活動概要】

人間、作業環境、組織等のヒューマンファクターや、ヒューマンインタフェース、リスクマネジメント等について、心理学、認知科学、人間工学などの観点から、幅広い検討を行い、事故発生メカニズムの解明や事故防止など、安全性・信頼性確保に資する情報提供・交換活動を行って参ります。また、可能な範囲で、会員の皆様のニーズを随時反映させ、積極的な支援活動を行って参ります。

主な研究内容

- ・ヒューマンファクター各要素の検討
人間特性（注意特性、生理特性、意識、知識、スキル、モラルなど）、
作業環境（明るさ、表示など）、
組織の整備（マネジメント、安全風土など）
- ・心理学、認知科学、人間工学の面からのアプローチ
ヒューマンエラー、認知・注意、メンタルワークロード（精神的作業負荷、精神的作業負担）、弱者支援
- ・ヒューマンインタフェース、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションの検討

研究会の進め方

安全・安心に関するヒューマンファクターについての最新のトピックスに関する講演会および討論会を開催し、事故の発生メカニズムの解明や事故防止に関わる基礎的な情報を提供します。

また、ヒューマンファクターに関する課題に対して、共同研究体制の探索を行います。

【体制】

主査：三浦 利章 大阪大学大学院 人間科学研究科 学部長・研究科長・教授
副主査：臼井 伸之介 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
学識委員：三戸 秀樹 関西福祉科学大学 健康福祉学部 学部長・教授
高橋 誠 大阪教育大学 教育学部 教授
森本 一成 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 教授
大須賀美恵子 大阪工業大学 工学部 教授
岡田 明 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授
篠原 一光 大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授
木村 貴彦 関西福祉科学大学 健康福祉学部 健康科学科 講師

主査・副主査・学識委員紹介

主査

氏名 現職	三浦 利章 大阪大学大学院 人間科学研究科 学部長・研究科長・教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	交通場面・作業場面でものを見ること・注意の働き方・認知の基礎・ 応用的研究、 交通安全に関する研究、 加齢・飲酒による注意・認知機能の変化に関する研究 など

副主査

氏名 現職	臼井 伸之介 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	日常生活や産業場面で発生するヒューマンエラーの発生メカニズム研究、 事故の背景にある種々のヒューマンファクターに関する研究、 建設業における墜落事故防止、 看護業務における効果的な安全教育プログラムの開発、 違反行動の発生メカニズム解明研究 など

学識委員

氏名 現職	三戸 秀樹 関西福祉科学大学 健康福祉学部 学部長・教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	健康福祉学・福祉のこころに関する研究、 社会的弱者への支援研究、 精神的健康・ストレスに関する研究、 過労と自殺の研究、 火災防止研究 など

氏名 現職	高橋 誠 大阪教育大学 教育学部 教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	心理学における自己決定・自律性・自由裁量の概念 自己決定や自律性、自己効力、自由裁量やコントロールといった概念が、 職場での仕事に限らず、福祉やスポーツの分野など、人間の様々な活動を 動機づけ、満足感を高める、あるいはストレス状態の低減に重要だと する理論は少なくない。こうした最近の理論で用いられている概念の整理 と問題点について提起 など

氏名 現職	森本 一成 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	高齢者や障害者のためのヒューマンインタフェースの設計と評価に関 する研究、 聴覚障害者のコミュニケーション支援技術の開発研究、 高齢者の機器操作支援のための基礎研究、 サインのユニバーサルデザインに関する研究、 作業負担の計測、 車いす利用者の移動支援に関する研究 など

氏名 現職	大須賀 美恵子 大阪工業大学 工学部 生体医工学科 教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	生理指標を用いた人の状態（眠気、ヒヤリ・ハット、認知負担など）に 関する研究、 バーチャルリアリティの医療福祉応用研究、 学術会議の下部組織の安全・安心に関する情報提供 など

氏名 現職	岡田 明 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	人間中心設計の方法に関する研究、 ユニバーサルデザインの考え方と進め方に起案する研究、 イメージしやすい操作方向に関する機器操作の認知人間工学研究、 フラットパネルディスプレイ視聴時の視覚疲労研究 など

氏名 現職	篠原 一光 大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授
主な研究内容 ・ 講演可能内容	ディストラクション（注意転導：本来注意すべきものから注意がそれて しまうこと）の研究、 メンタルワークメンタルワークロード（心的負担）に関する研究、 これらの認知心理学的方法による研究 など

氏名 現職	木村 貴彦 関西福祉科学大学 健康福祉学部 健康科学科 講師
主な研究内容 ・ 講演可能内容	情報の選択に重要な役割を担う注意特性の行動環境・三次元空間内での研究（基礎的領域のみならず、自動車運転時の情報獲得やカーナビゲーション使用時など、実際場面での安全・安心な作業遂行と効率性の維持に対して貢献）

【スケジュール】

研究会は5年程度活動する予定です。（会員の皆様と調整しながら見直しも行います。）平成19年度の研究会は3回/年、平成20年度は5回/年開催いたしました。

	H21年度
ヒューマンファクター研究会	(5回程度開催)

【募集要項】

《参加料》

15万円/年間（当財団賛助会員）（消費税込）

20万円/年間（一般）（消費税込）

《申し込み方法》

参加申込書に必要な事項をご記入の上、郵送またはFAXにて下記までお送り下さい。なお、申込みは随時受け付けいたします（年度途中からの入会も可能です）。

《お支払い方法》

申込書受領次第ご指示に基づきご請求申し上げますので、当財団指定の銀行へお振込頂きます。

【お申し込み・お問い合わせ先】

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
財団法人大阪科学技術センター
技術・情報振興部 宮下・青木
TEL：06-6443-5322
FAX：06-6443-5319
E-mail：miyashita@ostec.or.jp（宮下）
r.aoki@ostec.or.jp（青木）

賛助会員制度

- ◇当センターは、賛助会員企業による賛助会費等を運営基盤として、大学・公的機関と連携をとりながら、各種活動を展開しています。
- ◇賛助会員にご入会いただくと、1)当財団季刊誌「the OSTEC」のご送付、2)賛助会員対象の講演会・見学会等のご案内、3)研究会参加費の賛助会員金額の適用、4)貸会場の会員割引、などの特典があります。
- ◇賛助会費は年額10万円/1口です。
（賛助会員にご入会いただくと当財団賛助会員料金が適用されます。）

FAX to 06-6443-5319

(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部 青木 宛

関西安全・安心を支える科学技術推進会議
ヒューマンファクター研究会
参加申込書

平成 年 月 日

1. 会社(機関)名	
2. 登録委員 (2名まで登録 いただけます)	[ふりがな]
	[氏名]
	[所属役職]
	[住所]〒
	[連絡先] TEL. FAX. E-mail:
	[ふりがな]
	[氏名]
	[所属役職]
	[住所]〒
	[連絡先] TEL. FAX. E-mail:
3. 申込区分	1. 賛助会員 金150,000円(消費税込) 2. 一般 金200,000円(消費税込)
支払い方法	A. 一括払い B. 分割払い(回)
4. 請求書 送付先 住所	〒
所属	
氏名	
TEL・FAX	

※本申込書に記入された個人情報は、本件に関わるご案内・連絡等に使用させていただきます。また、当財団の関連する講演会・イベント等のご案内に使用させていただくことがあります。お断りのお申し出がない場合は、ご了承いただいたものとさせていただきます。

なお、ご本人の了解なしに、第三者へ提供したり、預託することはありません。
※事務手続き簡素化のため、次年度以降は特にお申し出の無い限り、継続参加の取り扱いとさせていただきます。